

第 8 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に向けた 本人ミーティングワーキンググループについて（案）

1 目的

認知症施策の企画・立案、計画策定において、認知症の方本人や家族の声を聴き反映させることが必須とされている。本人ミーティングにおいて、生活状況や要望を聴き取り、必要な施策を検討する。

2 方法

改めて本人ミーティングの場を設ける、本人・家族を招聘するといった方法は、負担感も大きく、自然な発言も出にくいといった懸念がある。区内で既に取り組まれている本人ミーティング（裏面参照）にワーキンググループが訪問し、聴き取りを実施する。

3 ワーキンググループメンバー

鵜浦委員 油山委員 志寒委員 神野委員

認知症の方を支援する地域密着型サービス代表委員とケアマネジャー代表委員
事務局：高齢者支援課在宅療養係

4 スケジュール

年度	月	作業内容
元	10月～	本人ミーティング訪問
2	1月	第3回専門部会 中間報告
	1月	第1回専門部会 最終報告（計画（案）の提示）
	5月	

5 区内本人ミーティング実施状況

（1） 地域包括支援センターの認知症地域支援推進員研修としての位置づけ

目的

地域包括支援センター職員および認知症地域支援推進員が、認知症施策の方向性を理解し、認知症の人の暮らしを支援する地域づくりを実践する。

認知症の人の意思尊重、認知症の人の視点を重視した取組について地域に暮らす皆さんとともに考え行動する。

認知症の本人の声を聴き、本人のよりよい暮らしにつながる工夫など、実践的な取り組みをすすめる。

名称 「アクションミーティング」

平成 30 年度実施結果

平和台地域 本人ミーティング 11月16日

茶話会形式で、好きなこと、得意なことなどを語り合った。

「こんなにおしゃべりできたことは最近なかった」との感想あり。
本人の声を地域に発信し、本人とともに取組が広がる地域を目指す。

豊玉地域

地域で孤独を訴えている方に街かどケアカフェや地域のつどいの場を案内。
包括の職員と一緒に参加。本人が望む暮らしができる街を目指す。

練馬地域 本人ミーティング 1月15日 2月14日

当事者 地域団体関係者 包括職員が参加
茶話会から当事者が得意とする創作活動や関心のあるボランティア活動に
発展。

光が丘地域

地域のサロン活動などの紹介とお誘い。介護予防活動への参加。

桜台地域

「認知症サポーター集まれ！」を企画6名の参加。(サポーターの活用で令和
元年には、認知症カフェを開催。)コンビニートインを活用した読み聞か
せ等の取組。街かどケアカフェの活用等。

高松地域 本人ミーティング 11月20日

本人への聞き取りから、友人もいなくなり、気軽にお茶する場もなく、相手
もいないという課題あり。街かどケアカフェに誘い本人ミーティングを実施。
「外出が億劫だったがまた誘ってほしい。」「とても楽しい。」といった前向き
な感想あり。

田柄地域 本人ミーティング 2月20日

本人からの生活状況や近況の報告。どんな環境なら暮らしやすいかの検討。
地域の中でのつながりや思いを話せる場が大切。

関町地域

既に本人の声を聴いている取組がある(オレンジカフェ、介護家族の会等)。
本人の声から、安心して買い物ができる環境や、集える場所の確保等の地域づ
くりの取組へ。

高野台地域

本人の声を聴きに行き、個々の本人の思いの実現を図る。道に迷っても困らな
い、「認知症です」と言える街づくりへ。

(2) 若年性認知症の方など認知症の初期の方、介護保険サービスに馴染めない方の居 場所づくりとしての開催

圏域毎の地域包括支援センターで対象者を情報共有、ミーティングの場を
設けるなどの取り組みを実施。 光が丘、田柄、高松地域包括支援センター

現在の取組： 本人の状態などを確認しながら、ミーティングを開催。

本人を交え、今後の取組を検討中。

本人参加の介護家族の会としての運営。 マリネの会

現在の取組： 会員：70名 月1回の定例会(20~30名程の参加)

まりねっこの会(ヤングケアラーの会)の開催、シンポジウムの
開催等、広域的な取組も実施。